



旭自治会 だより

令和5年3月1日 第59号 発行 旭自治会

TEL: 0771-22-5533

HPアドレス: kameoka-asahi.com (QRコード)



弥生三月を迎え

今日から3月、この冬は例年にましてとにかく寒くて、積雪も雪国のごとく感じるシーズンでした。なんでも10年ぶりの大寒波を経験したのだから、当然の寒さだったものと納得できます。そんな寒さも少しずつ和らぎ、各地で梅の花が咲き、朝夕は厳しい寒さを感じますが、昼間は穏やかな春を感じる陽気となってきました。

先日、川東の4町自治会と学校PTAや青少協とのご協力で「まほろば川東ウォークラリー」が開催され地域の子供たちと川東の歴史や自然を巡る道を歩いてきました。当日は時々雪交じりの風が強いあいにくのお天気でしたが、約4キロのコースを全員元気で踏破することができました。日頃、あまり歩くことをしない私にとりましては、何とか無事に歩けたというだけで、大変有意義な時間でありました。今回のイベントにご参加をいただきました方々や、スタッフとして参加いただいた役員の皆様、特に、途中で休憩をさせていただいた、なごみの里あさひの役員様に厚くお礼申し上げます。ふるさとの歴史、文化や自然を理解し、後世に是非とも受け継ぎたいものです。

春の日差しと朝夕の寒さを繰り返し、三寒四温を経験して季節が変わっていきます、3年間猛威を振るってきたコロナ感染についても、いよいよ展開がかわってきました。今マスクの着用について、いつから外すのか等と話題になっておりますが、どうも個人での管理に委ねることとなっております。亀岡市役所では、市民のご利用や一般の方々の出入りも多いことから、職員についてはしばらくマスクの着用を継続するとのことです。旭町自治会については、役員会で当面の方向について検討をしたいと思っております。なお、この5月にはコロナ感染症の扱い方の抜本的な変更が政府から示されますが、何はともあれ、暖かくなる春とともに穏やかな終息を願いたいものです。

さて、弥生三月を迎えました、いよいよ(弥よ)、草木が(生い)茂る3月、旭の山々、田や畑が春の活動準備を始めます、農業に限らず、新年度をスタートさせる事業・営業の準備の時です、各神社では「初午祭」が行われます。

まさに、二四節気の「啓蟄」のごとく、表に出て、動く季節です、新年度を迎える準備の時にあたり、町民の皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。



旭町自治会長 吉川 肇

「まほろば・亀岡かわひがし」を巡るウォークラリー 開催

平成30年3月に、川東4町全体が「まほろば・亀岡かわひがし」の名称で「京都府景観資産」に登録されました。まず住んでいる私たちが、川東地域をもっと知ることが大切と考え「川東を巡るウォークラリー」が2月25日（土）開催されました。

亀岡川東学園をスタートし、平の沢池をまわり「なごみの里あさひ」、車塚古墳で古墳の話を聞き、亀岡川東学園へ戻ってくるという約4kmを歩きました。

小学生や保護者、そして役員の方々の参加で川東地区を知る良い機会でした。



映画「chair」の撮影 亀岡市旭町山階で

亀岡市旭町山階にある「岡工房」で映画「chair(チェア)」の撮影が行われました。岡さんが監督と出会い話をしていると、いきなり岡さんの作った椅子に座っていた監督が「自分にピッタリだ。今構想している中編映画をこの椅子をテーマに撮りたい、ぜひ撮影場所にここを使わせてほしい」という話に発展。岡さんは、「まさかそんな出会いがあるとは・・・」と話しておられました。

上映となるのか楽しみです。そして、亀岡市旭町にもっとこういう出会いがあるといいなあと思いました。



暗い中で主役が考え込むシーン（カメラマン撮影）

3月行事お知らせ

- ・3月 4日(土)・・・エコグリーン配布 旭コミュニティ前倉庫 午前8時から
- ・3月 13日(月)・・・亀岡川東学園 卒業式 午前9時30分
- ・3月 23日(木)・・・亀岡川東学園 修了式 午前9時から

「亀岡をオーガニックのまちにする」をめざして

亀岡市では近年環境と人、農と食に配慮した市民の暮らしを豊かにする活動の一環として有機農業に力をいれており、そうした中で、「亀岡をオーガニックのまちにする」という目標に向かって「亀岡オーガニックアクション」として活動をすすめています。そのメンバーの中に亀岡市旭町の有機農家である大江広一郎さんが共同代表として活躍されています。一度お話が聞きたくてインタビューさせていただきました。

〈有機農業を始めたきっかけは？〉

大学3年のころ環境NGOの農業体験ツアーに参加し農業に触れ興味を持ちました。その後日本各地（北海道から愛媛）で農業体験をしました。その中でも、有機農業をされている方と出会い、その農家さんの姿勢がとてもカッコよく感じまし



た。生まれ育った場所が東京都という街の中だったので、農家の方の1つ1つの丁寧な作業を見て、自分たちが食べる野菜がこのような育てられているということに感動しその魅力に取りつかれました。

〈なぜ亀岡市旭町を選んだのですか？〉

卒業して2年2か月で会社を退職し、能勢町で1年の就農研修をしました。そして2010年亀岡市本梅町で有機農業を始めましたが、本梅町が区画整備事業の対象となりその間農地が使えないため、2017年、旭町を紹介してもらい旭町で農業を始めました。

〈移住してきた旭町の感想は？〉

「旭バンザイ」です。他から移住してきた者であるのにとっても温かく受け入れていただき、消防団活動なども楽しいです。今までは地域とのかかわりも少なく、それがよそから来た者としては当たり前だと思っていたが旭は違いました。みんなが受け入れてくれてよくしてもらい、旭最高です。

大江さんは、現在2.9反の畑で野菜 2反で米作りをしておられます。すべて有機栽培で行い、5種類の野菜をセットにして販売、販路も固定しておられます。昨年度より米も有機栽培で作っており、収量は少ないがおいしく、労働時間が少ないのが魅力だそうです。

亀岡をオーガニックのまちにする オーガニックアクションを立ち上げ、亀岡駅北の土地を有機の田として活用したいと市に提案されたそうです。その後有機米プロジェクトを立ち上げ、駅北の農地8反余りの田を有機農業の体験場所としてこの2年活動されてきました。栽培した有機米の販路も学校給食用として道筋がついたそうです。

大江さんは、都会で育ったからこそ、農業や田舎の魅力を強く感じておられるのだと思いました。そして今回お話を聞かせて頂き、感動と胸が熱くなる思いでインタビューを終えました。これからの活躍を応援したいと思います。

